

21世紀へ向けた環境・品質 に対する当社の取組

三橋 堯* 成田義信***
 石津晴夫** 福井睦子+
 吉田敬史*** 平田郁之++

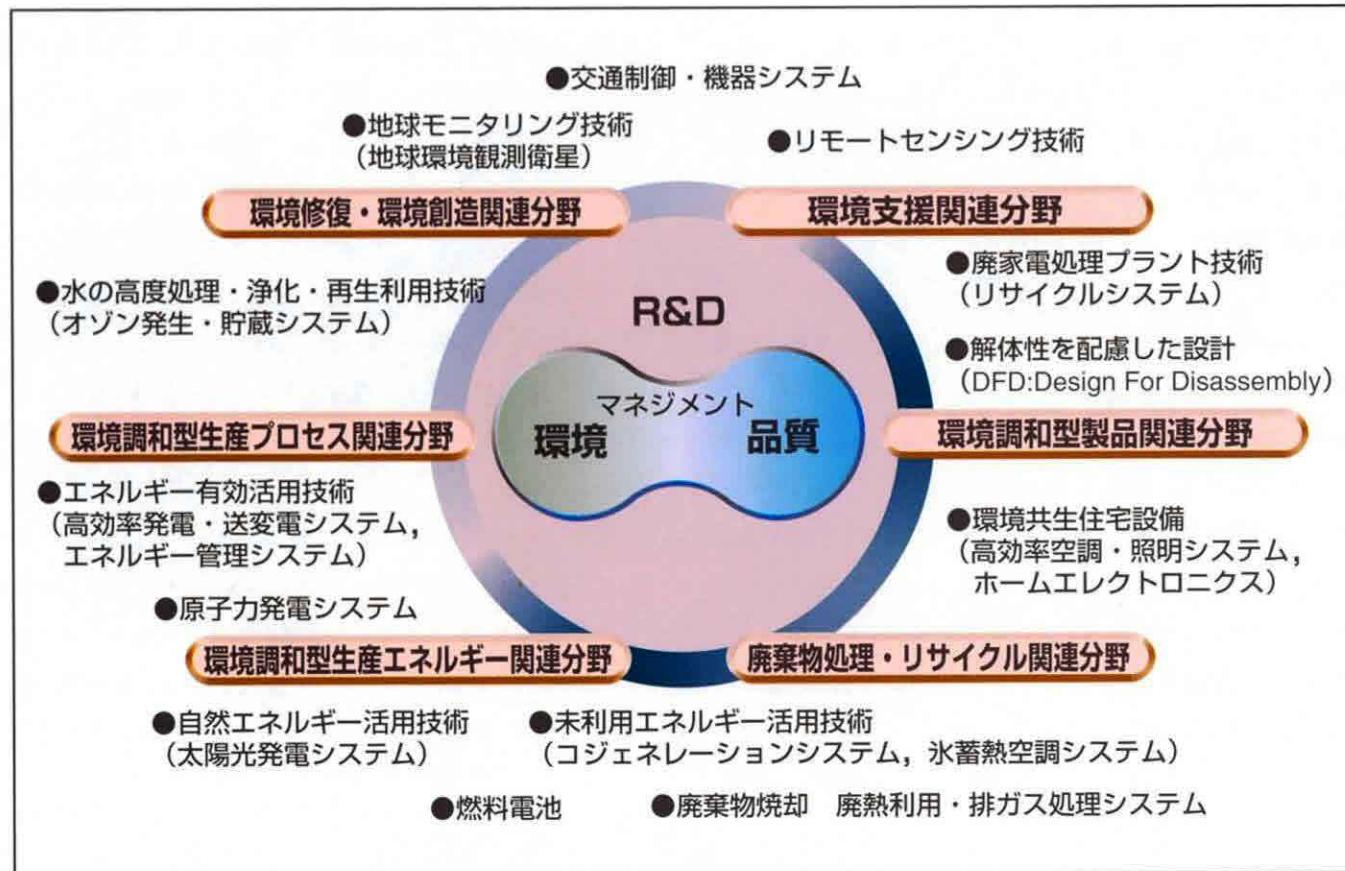
要旨

顧客の、そして企業の求める“質”は確実に変化している。21世紀を間近に控え、今まさに大きな視野・観点から“質”的向上が求められている。それは、これまで豊かな恵みを受けながらその大きさを意識してこなかった地球環境の“品質”である。我々企業も顧客も、持続可能な発展を目指す社会の一員である以上“地球環境の品質”に対して責任を持ち、行動を起こす必要がある。この責任を果たすため、三菱電機は、1996年5月に21世紀を視野に入れた“環境計画”を策定した。

企業の環境問題に対する取組は“自主管理”的方向にあり、これは規制や倫理に頼るだけでは不十分で、企業が経営そのものとして環境に取り組むことが自由経済市場の中での自己責任を果たすことであり、“循環型社会システム”を実現する近道との認識によるものである。

経営と環境計画という車の両輪が同じ方向を目指し、かみ(噛)合っていなければ、車は正しく前に進まないのである。

21世紀に向けた、当社の環境・品質への取組を紹介する。



産業環境ビジョンにおける環境事業 6 分野と三菱電機の環境事業

当社での具体的な環境事業・技術の一例を、通商産業省が提唱した「環境産業(環境負荷低減に貢献できる可能性がある産業活動分野)」の6分野に合わせて分類した。

2(464) *常務取締役 生産システム本部長 **環境・品質部長 ***環境・品質部グループマネージャー +同部
 ++新環境事業推進プロジェクトグループ参与(工博)